

社会事業史学会第 49 回大会のご案内（ご案内は今回のみで第 2 報はありません）

大会テーマ「近代日本における衛生と社会事業」

新型コロナウイルス Covid-19 の世界的流行は、改めて衛生への関心を高めている。歴史的に見ても、日本の近代は、幕末から明治にかけてのコレラの流行とともに始まった。近代化は、閉鎖的な社会から人やモノの流動性の高い社会への移行をもたらすが、その結果、新しいリスクにさらされることにもなる。グローバル社会の現代において、世界的な新型コロナウイルスの流行は不可避のことであったともいえよう。また、感染症と衛生行政が近代日本社会を変容させる重要な要因の一つとなってきた。今般のコロナ禍も社会を変容させるであろう。

本大会では、近代日本において西洋由来の衛生がどのように受容され展開されていったのか、そしてこの衛生と社会事業がどのような結びつきをし、また影響を受けてきたのかという点について、考えていきたい。まず、基調講演では、『近代日本における衛生の展開と受容』（東信堂、2010 年）というご著書を執筆された宝月理恵先生に、明治以降、衛生がどのように受容され、展開していったのかをご講演いただく。宝月先生は、衛生を「医学的観点からの日常的な規範（健康形成・病気予防の規範）の適用によって、個人および家族を個別化して立ち上げるとともに、個人・家族の集合を住民/人口全体として管理するための統治技術」ととらえるフーコー的な研究を批判的に継承し、衛生知や衛生規範の受容者の主体的な言説にも着目した研究を行われている。

その上で共通論題では、衛生と社会事業が交錯する領域において、双方がどのように交錯し、対立したのかについて検討したい。領域としては行政による衛生・保健事業、地域における衛生組合活動、セツルメントにおける衛生活動、ハンセン病患者会活動などである。

皆さまの積極的な参加をお願いしたい。

また本大会は、新型コロナウイルスの影響から、オンライン開催とします。初めての試みなので不手際もあるかもしれませんが、新しい試みでの大会運営にご協力ください。

社会事業史学会第 49 回大会実行委員会

大会開催日	2021 年 5 月 14 日（金）～16 日（日）
開催方法	Zoom ミーティングによるオンライン開催（要事前登録）
参加費	無料
主催	社会事業史学会第 49 回大会実行委員会
協賛	東京社会福祉史研究会

大会プログラム

大会 1 日目 : 5 月 14 日 (金) *報告の順番を変更しました。(2021 年 4 月 9 日訂正)

18 : 00 ~ 20 : 00 若手研究者交流会「初期キャリアの形成 : 研究をかたちにする」

岡本 周佳 氏 (東洋大学)

「社会福祉の歴史をテーマに論文を書くということ—私の博論執筆を通して—」(仮)

大石 茜 氏 (筑波大学大学院 博士後期課程)

「研究と子育て—修論を出版して—」(仮)

大会 2 日目 : 5 月 15 日 (土)

9 : 00 ~ 10 : 00 総会

10 : 00 ~ 10 : 20 文献賞研究奨励賞

10 : 30 ~ 12 : 00 基調講演「近代日本と衛生」

宝月理恵氏

(お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所 (特任講師))

13 : 00 ~ 16 : 30 共通論題 (シンポジウム)

座長 菅沼隆氏 (立教大学教授・会員)

シンポジスト

川上裕子氏 (亀田医療大学講師・会員)

保健婦を通じて見た衛生・保健政策の変遷

中村文哉氏 (山口県立大学教授)

近代日本における感染症衛生行政の展開とその特徴 (仮)

柴田謙治氏 (金城学院大学教授・会員)

セツルメントによる医療・公衆衛生活動

青山陽子氏 (成蹊大学ほか非常勤講師)

患者文化から捉える感染症衛生政策の歴史的特質

コメンテーター

宝月理恵氏

(お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所 (特任講師))

大会 3 日目 : 5 月 16 日 (日)

自由論題報告

9 : 00 ~ 11 : 00 分科会 1 (一人 20 分報告、10 分質疑応答、4 報告)

11 : 10 ~ 13 : 10 分科会 2 (一人 20 分報告、10 分質疑応答、4 報告)

13 : 50 ~ 15 : 50 分科会 3 (一人 20 分報告、10 分質疑応答、4 報告)

16 : 00 ~ 18 : 00 分科会 4 (一人 20 分報告、10 分質疑応答、4 報告)

※ただし韓国からの報告者で通訳が入る場合は、30分報告とする

大会参加申し込みのご案内

1. 参加費

無料

2. 事前参加登録方法

学会 HP に参加申込フォームを、2021 年 4 月以降に開設。参加申込フォームに必要事項を記載の上、登録してください。受付完了メールを受信できたことを確認してください。もしメールが届かない場合は、メールアドレスの誤記入の可能性があります。

Zoom に参加するために必要な ID は、大会直前（5 月 13 日を予定）に送付します。

自由論題発表申込のご案内

1. 研究発表申し込み資格

自由論題報告に申し込めるのは、2020 年 12 月現在、社会事業史学会の会員として理事会で承認されている者です。共同研究報告者がいる場合は、すべての共同研究者が会員であることが必要です。

また、社会事業史学会研究倫理指針を遵守する者であることが必要です。

2. 研究発表申し込み手順

① 報告原稿の作成

2021 年 3 月 31 日までに、研究概要を「自由論題報告フルペーパー作成要領」（6 頁に記載）によって作成してください。

発表の申し込み

2021 年 3 月 31 日までに、メールで報告原稿を送付してください。その際、以下の事項をメールに記載してください。**31 日の期日を過ぎたものは受け付けません。提出後の原稿の差し替えは認めません。**

<発表申込時にメールに記載する事項>

- ・氏名（ふりがなをつける）
- ・身分（共同研究者を含めて全員が会員であることを確認してください）
- ・所属先（大学院生の場合は、院生であることを記載）
- ・連絡先住所
- ・電話番号

送付先 : jigyoushi@ml.hosei.ac.jp

(2021年3月17日訂正)

② 報告原稿の修正と発表採用の可否

報告原稿が、自由論題報告フルペーパー作成要領によって作成されていない場合、研究倫理指針を遵守していないと判断した場合、フルペーパーとして内容が不十分であると判断した場合は、不採用、あるいは修正を求めることがあります。

修正や採用の可否については、4月20日までに連絡をします。

再修正をしても、十分な修正ができていない場合は、不採用となる場合があります。

③ 大会参加申し込み

事前参加登録を必ずしてください。

④ 発表時間帯の決定

5月10日以降に学会HP上で、自由論題報告の発表順等を公表します。

発表時間帯を指定したり、変更することはできません。

⑤ 発表当日（5月16日）

Zoomができる安定的な通信環境で、司会の指示に従ってご発表ください。

当日資料（動画は不可）は、Zoom画面上で共有できます。

重要 <自由論題報告の今回の変更点>

1) 分科会のセッションは一つです

Zoom で安定的に運営するために、一アカウントで行い、分科会は同一時間帯に一つとします。

2) 発表時間を短縮します

1 人の報告につき、報告時間を **20 分 (従来より 10 分短縮)**、質疑応答を 10 分とします (ただし韓国からの参加者は通訳が入るため報告時間を 30 分とします)。

3) 要旨の提出は不要です

今大会に限り、「要旨」の提出は必要ありません。3 月 31 日までに、自由論題報告申込書とフルペーパーをお送り下さい。

4) フルペーパーとして内容が不十分なものは発表できません

当日配布資料の配布ができないため、参加者の手元にはフルペーパーの内容しかありません。また発表時間も短縮するため、提出されたフルペーパーが不十分な内容の場合は、発表を不可とすることがあることをご理解ください。

5) 当日配布資料の当日配布はできません

従来の当日配布資料は、画面上での共有のみとし参加者に当日配布することはできません。また当日共有できる資料は、通信回線の安定性のため動画の再生は不可とします。

6) 報告要旨集 (紙媒体) は作成しません。

報告要旨集 (紙媒体) は作成せず、報告原稿を大会参加申し込みした人だけが HP 上で閲覧できるようにします。公表期間は、大会終了後 1 か月を予定しております。

<第 49 回大会実行委員会>

岩崎晋也 (法政大学)、大友昌子 (中京大学名誉教授)、菅沼隆 (立教大学)、野口友紀子 (武蔵野大学)、蜂谷俊隆 (美作大学) 五十音順

大会事務局連絡先

岩崎晋也 法政大学現代福祉学部

jigyoushi@ml.hosei.ac.jp (2021 年 3 月 17 日訂正)

